

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善・充実
- ②自ら学び、自ら考える子どもの育成

沖洲学校  
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長:米田直紀 副校長:橋本賢治  
教務主任:宮下鉄矢 研修主任、6 学年:長野麻衣 5 学年:土橋由佳  
4 学年:大下真季 3 学年:馬越敦子  
2 学年:濱口智子 1 学年:濱條敦代

校長

米田 直紀

【小中連携または中高連携における共通の取組】

語彙力の育成

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「授業中、先生や友達の話をきちんと聞いている。」(以下 A)の肯定意見は 87.7%であり、聞き方は、よくなってきた。 ●文章や資料の中から必要な部分を探し出すことに課題がある。	・学習課題にしっかりと取り組み、国語・算数の基礎的・基本的な学習内容を確実に習得できる。 ・A の 90%以上を目指す。	・聞き方スキルを提示し、話を理解しながら聞き、自分の意見を進んで話す態度を育てる。 ・朝の活動などで、聞くことの練習を各学級で行う。 ・様々な学習の場において、聴写、メモをとる、インタビューなど「聞いたこと」を表現に生かす活動を反復して取り入れる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりすることができる児童が増えてきた。 ●「授業中、進んで発表しようとしている」(以下 B)の肯定的意見は、5・6 年生で 55.1%であった。	・自分の考えをもち、話したり、書いたりして、相手に分かりやすく表現することができる。 ・B の 60%以上を目指す。	・話し方スキルを提示し、「伝え合い」に使用する語彙を増やし、根拠をもとに話す態度を育てる。 ・学習活動の中で、自分の考えをもち、表現する機会を意図的に設ける。 ・学習用語の意味を理解したり、使い慣れたりするような工夫をする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、一生懸命取り組むことができる。 ●「家庭でも、毎日勉強をし、宿題をきちんとする。」(以下 C)の肯定的意見は、5・6 年生で 85.3%であった。	・自分自身で考え行動し、主体的に活動できるようにする。 ・宿題や課題はきちんと提出することができ、家庭学習や自主学習に進んで取り組むことができる。C の 90%以上を目指す。	・何を・なぜ・どのように学ぶのが児童に伝わるよう、課題意識をもつ過程を重視し、学習課題や授業のめあてを工夫し、提示する。 ・めあてに対応したふり返りの視点を児童に示し、記述させる。 ・家庭学習の手本となる児童の内容を紹介し、着目すべき点を説明する。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

